

第1学年国語科学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日（〇）〇校時

学 級：第1学年〇組 〇名

場 所：1年〇組教室

授業者：〇〇 〇〇

1 単元名 「びっくり！生き物のひみつ」を友達に説明しよう

（「うみのかくれんぼ」光村図書）

2 単元の目標

○事柄の順序など情報と情報の関係について理解することができる。〔知識及び技能〕（2）ア

◎文章の中の重要な語や文を考え、選び出すことができる。〔思考力・判断力・表現力等〕C（1）ウ

○言葉がもつ良さを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

3 単元について

（1）児童の実態

本学級には、自分の思いを話すことが好きな児童が多い。また、交流する際には、自分の考えを裏付ける理由を加えながら伝えようとする姿が少しずつ見られるようになってきている。一方、友達のことを聞き、そこから自分の考えを広げたり深めたりするということは十分でない姿が見られる。また、語句の習得率に個人差があり、「ひらがな50音」を習得できていない児童や、文になると粒読みになると言葉のまとまりを捉えながら読み進めていくことが難しい児童もいる。まずはペアで交流することを通して言語化し、自分の考えを構築していくことの必要性を感じている。

7月には児童にとって初めての説明的な文章となる教科書教材の「くちばし」を扱った学習に取り組んだ。その単元では、「くちばしはかせ」になって、自作のくちばしクイズを友達に出し合う言語活動を行った。文字よりも写真や絵などから情報を得る視覚優位な児童が多いため、色彩や掲示物を整理をして、ワクワクする出会いとなるよう心掛けた。そうすることで、学習時間以外にも意欲的に調べたりまとめたりしている児童の姿が見られた。また、くちばしの特徴を色分けしてキーワードを捉えながらまとめていくことで、自分たちの力で重要な語句や文章を抜き出せる手掛かりとなっていた。しかし、いざ自分にとって「とっておきのくちばし」のクイズを作る際には、たくさんの情報の中から重要な語句が選べなかつたり、ポイントがずれてしまつたりし、自信がなく手助けを求める児童が複数いた。学習したことが生かされなかつたり、大きな課題である。

また、今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、学級文庫や図書室の本の利用に制限があった。様々なジャンルの本に出会う機会が例年より少なく、読書経験が乏しいことも課題である。日々読み聞かせをしたり、増設可能になった2学期からは、市立図書館と連携して常備する本の冊数を更に増やし読書環境を整えたりすることで、本を手取る姿が増えてきている。

（2）教材について

本教材「うみのかくれんぼ」は、1学期に学習した「くちばし」に続く、2つ目の説明的な文章である。「なにが、どのようにかくれているのでしょうか」という問いかけに着目して読むことで、「はまぐり」「たこ」「もくずしよい」の3種類の海の生き物がどこに隠れているのか、どのようにかくれているのかが読みやすくなるように工夫された構成になっている。また、それぞれの生き物について書かれた段落は、同じような文章構成になっているため、事柄の順序が分かりやすくなっている。そのため、文章の構成を学びながら3種類の生き物を比べ、「どのように」という、隠れ方の違いに目を向けることも考えられる。1年生の児童にとって、かくれんぼは身近な遊びであり、経験している児童

も多い。どのように隠れているかを自分と比べながら読むことで、児童は「びっくり」を感じながら読み進められることができるであろう。

本単元の「『びっくり！生き物のひみつ』を友達に説明しよう」は、学習指導要領の〔知識及び技能〕第1学年及び第2学年の「(2)情報の扱い方に関する事項 ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。」及び、〔思考力、判断力、表現力等〕第1学年及び第2学年の「C 読むこと ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」の指導事項を重点的に取り上げて指導する。

本単元で仕組む言語活動は、特に「ウ 学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動」を具体化し、「自分が『びっくりしたこと』が聞いている人に伝わるように、文章の中の重要な語や文を考え、選び出すことができる。」という目標で進めたい。

関連する図書資料として、約2週間前から「生き物」に関する本を多く置き、「生き物のひみつ」について幅広く興味をもてる本を選択できるようにする。さらにその中から、単元の始めに最も印象に残った生き物の本を選び、「自分が説明したい生き物」を決めておくことで、常に必然性をもって学習に臨めるようにしたい。

(3) 指導について

本単元のゴールは、「自分が選んだ生き物の『びっくり』とその理由を友達に説明する」ということとした。用意している本は多くの写真が掲載され、視覚的にも捉えやすい。そのため、「自分がびっくりしたこと」や「この生き物のここがすごい」という思いやその理由について、本文を踏まえ、写真の情報から自分の想像で話をしてしまうことが考えられる。そこで、「びっくりしたこと」を友達と交流する際には、ペアを変え、何度も繰り返し声に出して説明することで、少しずつ言葉をまとまりとして捉えられるようにしたい。また、ペアで音読することで、友達が選んだ生き物について、自分事として捉えられるようにしたり、「びっくりした」文に着目して伝えたりし、必要な情報を取り出せることをねらう。また、双方向のやりとりを行うことで、相手の思いや考えをより確かに理解することにつなげたい。

本単元の始めに、「自分が友達に説明したい生き物」を決め、継続的に「生き物びっくりカード」に「自分が見つけたびっくり」を蓄積していく。単元を貫いて、「自分が興味をもつ生き物について友達に伝えたい」という思いを大事に、より「伝えたい情報」をためていくことで、さらに友達を「びっくりさせたい」という思いや、情報と情報を比べて「こっちの方がもっとびっくりするかな。」という思いを膨らませ、目的に応じて情報を整理しながら学習を進めていけるようにする。

さらに、児童と共に立てた学習計画を掲示し、教科書教材を学習する際には、「なにが」「どのようにかくれているでしょうか」を色分けしたり、文章の中における情報と情報の関係を視覚的に整理した資料を常に見えるようにしたりすることで、見通しをもって自分の考えをまとめる手掛かりになるようにする。

10月初旬、生活科では、虫探しをしたり実際に飼育したりする経験を通し、「生き物ずかん」を作った。そのことで、生き物への興味が高まっている。生活科での学びを関連させながら、本単元では、更に「びっくりするような生き物のひみつ」に注目して考えられるようにする。

(4) 児童が「読み解く力」を、高め、発揮している姿とそのための手立て

【「読み解く力」の二つの側面】	【「読み解く力」の三つのプロセス】
A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力	①…発見・蓄積：必要な情報を確かに取り出す
B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力	②…分析・整理：情報を比較し、関連付けて整理する
	③…再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する

児童が目的意識や見通しをもって学習に取り組むことができるよう、指導者が言語活動のモデルを示すことを学習の起点とする。その上で、まず、Aの側面「主に文章や図、グラフから読み解き理解

する力」の、①のプロセス「必要な情報を確かに取り出す」において、「知らなかったな」「思ってもみなかった」というような、自分が選んだ生き物の「びっくりしたこと」について、「友達に伝えたい」という思いを強くもち、目的に応じて情報を発見・蓄積する児童の姿を目指したい。そのために、単元の始まりから友達に伝えたい「生き物」を決め、自分が見つけた生き物の「びっくり」を「生き物びっくりカード」に継続的に書きためていくことで学習に対する目的意識を明確にもてるようにする。また、教科書教材を使った学習と自分で選んだ本を使った学習を毎時間往還的に扱うことで、教科書教材で「事柄の順序など情報と情報の関係」について理解したことや「びっくりの視点」について着目したことを、自分で選んだ本の読みにも生かすことができると考える。

次に、Bの側面「主に他者とのやりとりから読み解き理解する力」の②のプロセス「情報を比較し、関連付けて整理する」において、自分が一番びっくりしたことと、その理由について重要な語や文を基に考えることができる児童を目指したい。そのために、色々な相手に向けて、自分が見つけた「びっくり」とその理由を言葉にして説明することを繰り返す活動を行う。自分の体験や他の動物と比べたり、根拠となる語や文を抜き出したりし、互いに自分のびっくりを説明し合うことを何度も繰り返すことで重要な語と文を関連させながら徐々に言語化できるようにする。

最後に、Bの側面「主に他者とのやりとりから読み解き理解する力」の③のプロセス「自分なりに解決し、知識を再構築する」に関して、友達との交流を通し、事柄の順序を整理しながら自分が選んだ生き物について説明できる児童を目指したい。そのために、複数のペアで交流した際に「うまくいかなかったこと」、「困ったこと」や「迷い」を共有し、全体で解決策を考える時間を設けることで、既習内容と新しく学んだことを関連付けて自分の考えをまとめたり、必要な情報を見直したりできるようにしたい。また、学習してきたプロセスを分かりやすく掲示し、立ち戻ったり比較したりすることで知識を再構築し、自分の考えを深められるようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分の見つけた「びっくり」を伝えるために、情報と情報の関係について理解することができる。(Cア)	友達に「自分のびっくり」を伝えるために、文章の中の重要な語や文を考え、選び出すことができる。(Cウ)	見通しをもって学習に取り組む中で、進んで本を読んだり、友達に「びっくり！生き物のひみつ」を説明したりしている。

5 指導と評価の計画（全8時間）

※実線は、「読み解く力」のAの側面、波線は、Bの側面に関わる留意点や評価規準

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
	0	生き物に関連する図書資料を読み、「生き物」に興味をもてるようにする。	・ 並行読書として関連する図書資料を置き、「生き物のひみつ」について触れる。	
一	1	単元の学習内容や目的を理解し、学習の見通しがもてるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ p.114～115の写真を見て、海にはたくさんの生き物がいることについて知識をもとに話し合うことで、教材に興味をもてるようにする。 ・ 自分がかくれんぼした経験や生活科で生き物図鑑を作ったことを想起できるようにする。 ・ 児童が見通しをもって取り組めるように、指導者が生き物の秘密 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見通しをもって学習に取り組もうとしている。 （主体的に学習に取り組む態度）

	1		<p>を説明するモデルを提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>生き物について「びっくり」したことを「生き物びっくりカード」に書かためられるよう、モデルを示す。</u> ・ 自分にとって思い入れがあり、友達に説明したくなるような「生き物」を決めておくことで、目的意識をもって学習に取り組めるようにする。 ・ 現段階で自分が調べたい生き物について知っていることを書きとめておくことで、単元を通しての変容を実感できるようにする。 	
	2	<p>3つの生き物の中から「一番びっくりしたこと」を出し合いながら、児童とともに学習の計画を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材文の3つの生き物の動画を視聴し、視覚的にイメージしながら本文を何度も読み返すようにする。 ・ 3つの生き物の中から「一番びっくりしたこと」を見つける。 ・ 各自が見つけた「びっくり」を交流する中で指導者が視点ごとに類型化し、単元の目標を達成するために必要なことを児童と共に整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。</u> (思判表Cカ)
二	3	<p>教材文の「はまぐり」で「びっくりしたこと」とその理由について友達と交流したことを生かし、自分が選んだ生き物の「びっくり」探しをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人に分かりやすく伝えるために、写真がある良さに気付けるようにする。 ・ 児童の発言の中から「びっくり」を見つけるための視点を取り上げ、指導者が類型化を図りながら可視化する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>からだ おおきさ ばしよ かくれかた かたち</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>「びっくりしたこと」を伝えるために必要な語や文を考え、選び出せるように、教材文で見つけた視点を生かすように促す。</u> ・ <u>自分の選んだ生き物について「びっくり」したことを書かためられるように「生き物びっくりカード」を用いる。</u> ・ <u>教科書と自分が選んだ本で見つけた「びっくり」とその理由について、ペアで交流する時間をもつ。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>事柄の順序など情報と情報の関係について理解することができる。</u> (知・技(2)ア)

	4	<p>教材文の「たこ」で「びっくりしたこと」とその理由について友達と交流したことを生かし、自分が選んだ生き物の「びっくり」を蓄積する。</p>	<p>・「なにが」「どのようにかくれているか」という事柄が「はまぐり」と同じ順で書かれていることを捉える。さらに、教材文を縦に並べて掲示することで、同じ事柄が同じ文型で書かれていることを視覚的に捉えられるようにする。</p> <p>・本時で見つけた「びっくり」の視点」を整理する。</p> <p>からだ いろ</p> <p>・「よりびっくりしたこと」を友達に伝えるために、自分の選んだ本を読み返すように促す。</p> <p>・教科書と自分が選んだ本で見つけた「びっくり」とその理由について、ペアで交流する時間をもつ。</p> <p>・「びっくり」とその理由を上手く伝えられているペアをモデルとして示し、キーワードを可視化していく。</p> <p>～が～する ～にかいてあるから</p>	<p>・事柄の順序など情報と情報の関係について理解することができる。</p> <p>(知・技(2)ア)</p>
二	5	<p>教材文の「もくずしよい」で「びっくりしたこと」とその理由について友達と交流したことを生かし、自分が選んだ生き物の「びっくり」の中から友達に伝えたいものについて、考えを整理する。</p>	<p>・教科書教材文にある3つの生き物の共通点を捉え、児童の「びっくり」の視点を整理する。</p> <p>からだ へんしん ～があるから～する</p> <p>・自分の経験と比べたり、他の生き物と比べたり、心に残る語や文を選び出したりしながら「びっくり」を選んだ理由について考え、ペアで交流する時間を設定する。</p> <p>・「びっくり」とその理由を上手く伝えられているペアをモデルとして示し、キーワードを可視化していく。</p> <p>じぶんだったら、～ ～とくらべると、～</p>	<p>・文章の中の重要な語や文を考え、選び出すことができる。</p> <p>(思判表C(1)ウ)</p>
	6 本 時	<p>自分で選んだ生き物の「びっくり！生き物のひみつ」について、ペアで交流し、自分の考えを確かなものにする。</p>	<p>・自分が見つけた「びっくり」とその理由を考えられるように、本時までには児童と見つけてきた「びっくり」の視点と、うまく伝えるために大切にしてきたキーワードを確かめる。</p> <p>・次時の発表に向け、蓄積した「びっくり」とその理由を3つに絞る</p>	<p>・選んだ生き物について、文章の中の重要な語や文を選び出し、その理由を伝えることができる。</p> <p>(思判表C(1)ウ)</p>

二	6		<p>ことで、複数の事柄からどうしてそれを選んだかを考えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人グループでペアを交代しながら複数の友達に交流することを通し、明確に言語化できるようになったり、自分の考えを深めたりできるようにする。 ・友達と交流する中で出てきた「迷い」や「困っている」ことを学級で共有する。友達の困っていることを解決するために、どのようにすればよいかを一緒に考えることを通し、自分の考えをまとめる手掛かりとなるようにする。 	
三	7	自分が見つけた「びっくり」とその理由について、整理する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に全体交流で得た考えを基に、発表に向けてさらに必要なものを準備したり、リハーサルしたりする場を設定する。 ・友達に説明したいことを整理できるように、前時に選んだ3つの事柄でよかったかどうかを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ生き物について、文章の中の重要な語や文を選び出し、その理由を整理しようとしている。 (思判表C(1)ウ)
	8	「びっくり！生き物のひみつ」について、他の学級の友達に説明し、単元での学びを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な語や文を用いたり、写真を効果的に使ったりしながら、聞いている人を意識して説明できるようにする。 ・「びっくりを伝えたい」という思いを高めるために、1年生の友達に発表できる場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ生き物について、文章の中の重要な語や文を選び出し、その理由を伝えようとしている。 (思判表C(1)ウ)

6 本時の目標（本時：6／8時間目）

自分が見つけた生き物の「びっくり」とその理由について、本文の中から重要な語や文を選んで、説明することができる。

7 本時の評価規準

文章を読んだり交流をしたりすることで、自分が見つけた生き物の「びっくり」について、文章の中の重要な語や文を選び出し、その理由を伝えることができる。

8 本時の展開 ※実線は、「読み解く力」のAの側面、波線は、Bの側面に関わる留意点や評価規準

	主な学習活動等	指導上の留意点（・） 評価規準（□）
3分	<p>① 本時のめあてをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振り返り、本時のめあてと学習活動を確認する。 ・「びっくり」を伝える上で重要になる語や文を使って、「びっくり」やその理由を説明することを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・蓄積してきた「生き物びっくりカード」を振り返り、初めに知っていた情報と比べてたくさんの「びっくり」を見つけることができたことを実感し、「より友達に伝えたい」という思いを膨らませる。 ・ペアで交流することで、「友達によりびっくりした思いが伝わる説明にする」という目的意識をもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>自分が見つけた生き物の「びっくり」とそのわけを友達に説明しよう。</p> </div>		
5分	<p>② 学習の流れを確認し、説明の仕方を自分で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「びっくり」と思った語や文に着目し、その理由について「キーワード」などを基に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に「びっくり」とその理由を伝える上での「びっくり」の視点やうまく伝えるために大切にしてきた「キーワード」を確認し、本時の活動の見通しをもてるようにする。 <p>「びっくり」の視点</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・からだ ・大きさ ・いろ ・たべもの ・～があるから～する。 ・へんしん ・ばしょ ・かたち </div> <p>せつめいじょうず</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・～が、～する。 ・どうしてかというと、 ・～とくらべると、 ・～とかいてあるから、 ・じぶんだったら、～ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の「生き物びっくりカード」の中から特に伝えたい「びっくり」を3つ選び、その理由について自分の考えをもつようにする。さらに、<u>複数の事柄からどうしてそれを選んだかを考えるようにする。</u>
10分	<p>③ 自分で選んだ生き物の「びっくり！生き物のひみつ」について、ペアで交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人グループの中で、ペアを2回交代しながら友達に説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアを代えて何度も繰り返し説明することで、<u>自分の伝えたいことを明確に言語化できるようになったり、自分の考えを深めたりできるようにする。</u>

20分	<p>④ 交流を通して出てきた課題を全体で共有し、人に説明する時に重要なことを整理した後、別のペアで交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><予想される児童の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つしか「びっくり」を見つけられなかったのに、本当にそれでいいのかな。 ・友達をびっくりさせたいんだけど、どう言ったらいいのかな。 ・3つとも「からだ」のことばかりなんだけど、それでいいかな。 ・自分はびっくりすると思って言ったけど、友達は思っていたほどびっくりしてくれなかったんだ。 ・どんな順番で説明しようかな。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>友達と交流する中で出てきた「迷い」や「困っている」ことを学級で共有する。友達の困っていることを解決するために、どのようにすればよいかを一緒に考えることを通し、自分の考えをまとめる手掛かりとなるようにする。</u> ・<u>教科書教材において、情報と情報の関係について視覚的にまとめた資料や大事なキーワードを常に見えるように掲示することで、自分の考えをまとめる手掛かりとなるようにする。</u> <p><input type="checkbox"/> <u>選んだ生き物について、文章の中の重要な語や文を選び出し、その理由を伝えようとしている。</u>（思判表C(1)ウ)</p>
7分	<p>⑤ 学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交流を通して、「びっくり」とびっくりした理由について自分の考えを説明することができたかを確認する。また、説明してどうだったかを振り返る。 ・交流を通して得られた友達の反応や自分自身の手応えなどをもとに振り返るように促す。さらに、次時に自分で選んだ動物の「びっくり！生き物のひみつ」を他の学級の友達に発表することを確認し、意欲がもてるようにする。

9 授業参観の視点

- (1) 児童が「読み解く力」を、高め、発揮するための授業づくりのポイント
- (2) ペアでの交流を通して、自分が伝えたいことを整理できたか。